

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100285		
法人名	医療法人天仁会		
事業所名	グループホームうえの家 1(2階)		
所在地	沖縄県那覇市上之屋408-4		
自己評価作成日	令和2年11月22日	評価結果市町村受理日	令和 3年 3月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosvoCd=4790100285-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosvoCd=4790100285-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和2年 12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者の皆様が、ご自身の生活ペースを保ちながら、安心して寛げる場となれるよう、職員一同支援させていただいています。それぞれの必要とされているものを見極めながら、ニーズに応えられるようできる限り支援してまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念の下、家庭的な環境の中、利用者が思いのままの生活ができるよう、日々の生活で急がずことがないよう、職員間で確認しながら寄り添い支援している。利用者の尊厳を守り、地域や家族との結びつきを大切にしながら生活支援を行っている。就業環境については、法人は職員の年休取得の奨励を行うとともに、勤務体制に関する職員の意向を聞き、希望に添うよう努めている。法人内の異動希望や正職員としての勤続年数継続の中で、時短勤務(1日5時間)を可能とし、対応している。定期健診の費用の一部補助や人事考課制度による年2回の面接も実施し、職員が働きやすい環境の整備に取り組んでいる。避難訓練は、1階から3階まで利用者を含め40名が参加し、年2回昼夜を想定した地震を起因とする訓練を実施し、記録を整備している。地域へ100部ポスティングによる協力の呼び掛けを行っている。5年間保存できる備蓄食を3日分常備し、メニューを作成している。3日分の着替えと薬、水筒を非常袋に入れて各利用者が背負って避難できるよう準備を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に意識しながらケアができるように心がけています。今年はコロナ禍の中でいろいろな制限がありますが、常に意識しながら実践する努力をしています。	事業所の理念の下、家庭的な環境の中、地域や家族との結びつきを大切にしながら生活支援を行っている。職員は、利用者にとって、違和感がなく本人の思うがままの生活ができるよう、日々の生活で急がすことがないよう気配りしている。職員間で確認しながら寄り添い支援し、実践に繋げている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまで地域の皆様に発信してきた行事なども、今年は中止となり交流はできていない。外へ出た際の挨拶などを欠かすことなく、次に繋げていきたい。	地域とのつきあいは、従来は、七夕会などの行事に地域の方も案内する目的で、近隣住宅へのポスティングや事業所建物玄関前の掲示板にポスターを掲示している。今年は、コロナ禍の影響により、行事等は案内を自粛し、敬老会等も利用者のみで実施している。家族参加、及び面会も制限している状況であるが、県内の状況に配慮しながら、近隣に住んでいる退去者との交流やドライブ等で挨拶を交わすなどしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流ができない中、これまでの建物入り口での掲示物での発信を継続。また、看護師を中心に「オレンジガーデンプロジェクト」を行ってきており、これから広げていきたいと考えている。	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	個々の専門的な知識からの助言、アドバイスをいただき、施設のケアについて考え、検討しながら改善しています。	運営推進会議は、2か月に1回定期的に予定され、1月は実施されているが、3月と5月はコロナの影響により中止し、資料を構成員の方へ送付されている。7月以降は、コロナ感染防止を考慮するとの法人の方針で、家族と利用者は参加させず実施している。前回課題の家族参加については、民生委員を務めている家族に参加依頼を行い、開催時に案内を行うこととしている。議事録内容は、2階、3階の明記が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	がんじゅ一課や保護課担当の方から助言、アドバイスをいただいています。事故報告については細かい内容をお伝えし、ご家族との対応についても声掛けいただいています。	行政との連携は、運営推進会議開催時に担当職員が毎回参加しており、レジメの書き方等のアドバイスや情報交換を行っている。会議への案内や事故報告書の提出時に利用者の状況等を説明している。保護課との連携や市からの研修案内等はメールで連絡があり、協力関係を築くよう取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを見返し、入居者の皆様と御家族のことを思いながら、スピーチロックも含め意識しながらケアに取り組んでいます。センサー対応やソファの配置などを考慮し注意も払っています。	身体拘束をしないケアの実践として、ワークシート形式で身体的拘束等の適正化に関する理解を深めるため、年2回研修を実施している。毎月、職員間の身体拘束委員会が開催され、議事録も作成している。運営推進会議において身体拘束について話し合われており、委員からの提案でリクライニング車いす使用で改善された事例がある。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何か、を意識しながら入居者の皆様とコミュニケーションをとるよう心掛け業務取り組んでいます。入浴時や着替えの時などに注意深く観察するよう努めています。	虐待防止については、権利擁護の研修や身体的拘束等の適正化に関する研修において、虐待の弊害等について理解を深めている。職員は日々の生活の中で、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように、お互いで気配りしながら利用者支援に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内専門職へも確認を行ったり、活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には今後の生活の流れについて、また入院時にも理解、協力していただけるよう時間をとって説明、対応しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査、面会時、受診の際、ケアプラン作成時には施設への要望をお聞きし、それを職員で共有できるようにしています。	利用者や家族等の意見については、年1回、家族へ満足度調査を実施しており、「よろしく願います。」との回答が殆どである。家族より「旧盆に家に連れて行きたい」との希望があったが、コロナ感染対策のため、今年は断っている。受診時等も、家族との外食やドライブが中止となっている。今年は面会も禁止している時期が多い。利用者は電話で家族とやり取りしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フィードバックやミーティング、申し送りにて意見、提案を確認し業務に反映するよう努めている。	職員の意見については、毎月のミーティング等で意見を聞く体制があり、職員は積極的に意見や提案をし運営に反映している。薬の飲み忘れの改善策を皆で検討し、服薬支援の方法について手順書を作成し、実践している。全職員の同意により、入浴支援担当についての見直しが行われている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	フィードバックも含め常日頃から各自の思いや環境を確認し、できる職場環境作りを心がけています。	就業環境については、法人は職員の年休取得の把握や奨励を行うとともに、勤務体制に関する職員の意向を聞き、希望に添うよう努めている。法人内の異動希望や正職員としての勤続年数継続の中で、時短勤務(1日5時間)を可能とし、対応している。定期健診の費用の一部補助や年2回の人事考課も実施し、職員が働きやすい環境の整備に取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は特にワークシートを中心に研修を行っています。 人事異動で配置になった看護師については看護師協会の研修に参加していただいた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の専門職や法人内での交流、コミュニケーションを図り、相談できる機会を大切にしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族の要望するケアを確認し、それが無理のないサービスとなるよう、不安が取り除けるように導入するようになっている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話などで希望、要望を確認し把握。それを職員間で共有するように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の希望は何であるのか、必要なものは何なのか、職員間でも見極め、支援可能、不可能を明らかにし、その後のサービスに繋がっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を尊重し、生活の一部であったり、過去の立場や経験されたであろうことなどを考え、同意を得ながらケアするよう努めています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係性を理解。それを踏まえながら情報交換し、常日頃の状態をお伝えすることも行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族からの情報を元に、面会や手紙、電話のやり取りなど継続できるよう支援に努めています。	馴染みの関係継続については、入居後も宗教関係の仲間と定期的に集まっていたが、今年はコロナ禍の影響により、本人居室からリモート会議に参加する利用者を支援している。定期的に新聞のクイズに応募することを楽しみにしている利用者もいる。電話や手紙で家族等との関わりも途切れないよう、支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の何気ない行動や特徴から関係性を把握。触れ合いが行え、共同作業もできるような環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動先の確保について協力させていただいたり、状況確認をしたり、相談できることは引き続き行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とのコミュニケーションや観察から、ご希望、意向の把握に努めています。デイケアに通われている方は、そこからの情報を取り入れるなど行っています。困難な場合はご本人の状態を踏まえ対応するように努めています。	思いや意向の把握については、殆どの利用者が会話でのコミュニケーションが可能のため、日々の生活の中で、本人の思いを聞き取り確認しながら意向に添うよう支援している。困難な利用者の場合は、本人の手を触りゆっくり話をしたり聞いたりし、体の動きを見ながら把握している。面会時の家族からの情報やデイケア利用者の場合は、デイ職員からも情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や趣味、嗜好、性格的なものなのか、過去の職業に関係するのか、などご家族へも確認し把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康状態、心身状態を日報や申し送りから変化も含めて把握。共有するように努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の提案はもちろんモニタリング、職員の声、アイデアも日頃から聞き取られ介護計画に反映しています。	チームでつくる介護計画とモニタリングについては、介護計画は、長期目標は1年、短期は半年とし、モニタリング及びアセスメントも半年毎に行われている。「外食したい」との本人の意向や「できることをさせてほしい」との家族の意向を踏まえ、皿洗いや掃除、植木の水かけ等、利用者のできることを増やす、ストレングスの視点で支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、状態変化、変更も記録され申し送りされています。そこから検討、計画変更などに活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況も変化していく中でお話を伺い、事業所でできる範囲で情報を提供、支援しています。事業所が主体になって行わなければならない場合はご家族の意向に沿いながら対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターで確認を行ったりしているが、コロナ禍で思う存分できていない現状がある。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時にはできる限り同行するようにしています。主治医と情報を共有しながら服薬の相談なども行えるようにしています。同行できない場合はFAX送信や電話連絡をしてスムーズな受診、必要な医療が提供されるよう努めています。	利用者の殆どが馴染みのかかりつけ医を継続し、状態変化に伴い、訪問診療等への相談や家族の希望を伺い納得のいく医療が受けられるよう支援している。家族対応での受診に計画作成担当者が病院で待ち合わせて医師との情報の共有が行われている。毎週利用者全員が訪問歯科を利用し、特定検診も行われている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に報告、相談を行っており、検討、実践している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院がスムーズに行えるよう病院相談員と情報交換を行っている。これまではご家族からの情報もあったが、面会が制限される中、厳しい状況も見られるようになった。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明も行いますが、日々生活していく中で状態の変化について、予測、検討しながら、どのようなサービスを選択していくことが良いのか、相談するようにしています。	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援については、入居時に、利用者全員に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。看取りを希望する利用者や家族に対応できるよう、今年7月に看護師を配置し、体制を整えて状態変化に伴い家族等や医師と相談し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あらかじめ、急変の想定、感染症発生についてシュミレーションを行ったり、検討、対応しています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定し訓練は実施しています。備蓄品も用意していますが、地域の方々の参加については、まだまだ把握できていません。	避難訓練は、1階から3階まで利用者を含め40名が参加し、年2回昼夜を想定した地震を起因とする訓練を実施し、記録を整備している。地域へ100部ポスティングによる呼び掛けを行ったが、参加はなかった。5年間保存できる備蓄食を3日分常備し、メニューを作成している。3日分の着替えと薬、水筒を非常袋に入れて各利用者が背負って避難できるよう準備を行っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の尊厳について意識し、その人らしさを考えています。声掛けの内容や対応に配慮し、自ら口に出せない方への寄り添いも大切にしています。	職員は、利用者の意思を尊重し、敬いの言葉遣いで距離を置かないような対応を心掛けている。プライバシー保護マニュアルが整備され、職員は守秘義務を周知している。個人情報保護方針と利用目的が掲示されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人へ確認するだけでなく、表出しやすい雰囲気作りへの配慮も行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活リズムの理解、把握も行っているが、日々のルーチン化の中からリズム作りを行ったり、と支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	伺える方には確認しながら着替えを行ったり、状況に合わせてコーディネートを行ったりしている。朝はご自身で整容していただいたり協力いただいている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好、栄養、安全面などに配慮しながら、かたづけなどもお願いしている。	食事を楽しむことのできる支援については、コロナ禍での対策として、食事は全て法人で調理した配食となり、安全を確保するためソーシャルディスタンスを取り、職員は持参した弁当を離れた場所で頂いている。主食のパンやご飯の選択、カレーをシチューに変更する等嗜好調査も行い、反映している。利用者は、配膳や食器洗いを行っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の摂取状況の記録や体重計測などを元に、量や形態、とろみ付けなど安心して好んで食べられるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるADLを維持しながら、訪問歯科のアドバイスもいただき、口腔ケアに対応しています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるADLを維持しながら、お一人お一人に合った排便コントロールを行っている。	排泄の自立支援については、体重測定や水分摂取量等と合わせて、排泄チェック表で確認し、マッサージを行う等で、日中は利用者全員トイレでの排泄支援を行っている。頻回にトイレに行く利用者の安眠のため夜間は2名が、ポータブルトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取状況の確認や体操、マッサージの実施。服薬の調整など取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人だけ自立されている方は、希望に合わせて入浴されていますが、他の方々は希望に沿った状況ではありません。安全第一を優先に支援しています。	入浴は週2回のシャワー浴を基本としているが、外出や病院受診等希望があれば、個別の支援を行っている。利用者1名が毎日足浴を希望し、職員は見守りを行っている。異性介助の場合は、本人の同意を得て行っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や寝具の選択、電気スタンドの使用など個々の状態に合わせて支援しています。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者それぞれに担当職員がおり確認を行い、それを看護師が最終確認しています。変更時には情報が共有され状態変化があれば報告し、主治医へ相談を行っています。	服薬支援マニュアルを作成し、薬箱用のキャビネットに与薬方法について掲示し、看護師が管理を行っている。冷蔵庫での保管薬の飲ませ忘れが1件あり、医師と相談し、常温で保管できる薬と変更して安全な服薬支援ができるよう職員間で話し合い、情報を共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	使命感に燃えてゴミ箱作りをする方、集中して塗り絵や貼り絵作業をされる方など、他にも見つけられたらと考えています。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご自身の希望で自販機での購入をされる方には職員付き添いの元、外出しています。今年制限の中ですが、模索していきたいと考えています。	ほぼ毎日3名の利用者が、屋上庭園のバナナやパッションフルーツ等の果物に水やりを行っている。毎日下階の自動販売機でジュース類を購入している利用者もいる。家族や友人との外食等はコロナ禍になり、現在は行われていない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することの重要性は理解できるが、中にはどうしても危険が伴う方も出てきたため、ご家族も合わせ引き続き検討していきたい。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年3月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら携帯電話を所持される方もいらっしゃいます。はがきや手紙のやり取りをされる方もいらっしゃり、できる範囲での支援を継続します。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じてホーム内の飾りつけを行っています。 四季の変化を少しでも感じていただけるよう工夫していきます。	共用空間には、クリスマスツリーが飾られる等季節ごとの装飾が行われている。日中は、冷暖房を調整しながら密閉しないよう換気を行っている。利用者は、ソファーに腰掛けてテレビを視聴したり、DVDを見ながらラジオ体操を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓席の配置など考慮しています。今年はコロナ対策が中心になっています。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を飾ったり好みの家具を置かれたり、ご家族への協力もお願いしています。	家族の協力により、居室に家族の写真を飾ったり、冷蔵庫を設置している利用者もいる。漫画好きな利用者のため職員が読み終わった漫画本を持参している。家族とWi-Fiを繋いでテレビでリモート面会を行っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレマークや居室のお名前の掲示など、できること、安心につながるように対応しています。		